

教科名 **国 語** 科目名 **現 代 の 国 語** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **現代の国語(大修館書店)**

副教材（発行所） **現代を読む評論文20選ステップアップ(明治書院)、入試類出漢字+現代文重要語彙TOP2500(いいずな書店)**

学 習 目 標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
観 点	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
別 評 価	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 明日をひらく 「白紙」 「伝える、伝え合う」	・言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。 ・相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。	年間通して適宜小テストや課題を行う。
	5	2 要点をつかむ「水の東西」(読む) 3 的確に伝える 「伝わるように話す」(話す・聞く) 「わかりやすく書く」(書く)	・叙述を的確にとらえ、具体と抽象を理解する。 ・文章の要点をまとめる。 ・話し言葉の特徴を知り、聞き手が理解しやすい説明の仕方を考える。 ・相手に正確に伝わる書き方を身につける。	
		6	4 意見を示す 「発想を広げる」(話す・聞く) 「意見を書く」(書く)	・他者と意見を交流し、アイデアを出し合い整理する。 ・構成や展開を意識して文章を書く。 ・根拠を明確にして、自分の意見を書く。
	7	5 論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」(読む)	・主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 ・演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。	夏季課題学習
第 2 学 期	9	6 魅力的に伝える 「工夫して話す」(話す・聞く) 「魅力的な紹介文を書く」(書く)	・相手の興味を惹くように、構成や展開の工夫を学ぶ。声の強弱や話す速度などを意識する。 ・さまざまな表現上の工夫を知り、読み手が共感できるような文章を学ぶ。	夏季課題提出
	10	7 資料を駆使する 『「安くておいしい国」の限界』(読む) 「統計資料をもとに意見を書く」(書く)	・資料と文章の関係に注意して情報を読み取る。 ・統計資料を正確に読み取り、情報を組み合わせたり比較したりして、自分の主張を書く。	
	11	8 他者と交流する 「目的に沿った質問をする」(話す・聞く) 「状況に応じた通信文を書く」(書く)	・質問の目的を明確にし、知りたいことへの理解を深める。 ・通信文の基本的なルールを知る。 ・相手や場面に応じた通信文を書く。	
12	9 情報を比較する 『「美しさの発見」について』(読む)	・複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	冬季課題学習	
第 3 学 期	1	10 他者を動かす 「説得力のある資料をつくる」(書く) 「資料を用いて発表する」(話す・聞く)	・提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 ・効果的な表現や資料の提示の工夫を学ぶ。 ・資料に基づいて、聞き手の心を動かす話し方を工夫しながら発表する。	冬季課題提出
	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 ・他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 ・司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。	
	3	12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	春季課題学習

教科名 **国 語** 科目名 **言 語 文 化** **必 修**

科 別 **普 通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **言語文化(大修館書店)**

副教材（発行所） **基礎から学ぶ解析古典文法(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法演習ノート(桐原書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)、基礎から解釈へ 漢文必携(桐原書店)**

学 習 目 標	言語文化に対する理解を深めつつ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自分の思いや考えを深めたり広げたりするとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
観 点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
別 評 価	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 言語文化への視点 「世界を見わたす窓」 2 言葉の紡ぐ世界 「羅生門」	・言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る。 ・場面ごとの人物の心情変化を読み取る。	
	5	3 伝統と発展 「実体の美と状況の美」 「短歌 十二首」 「俳句 十五句」	・美についての筆者の考えを読み取る。 ・短歌や俳句に親しみ、表現の特徴を理解する。 ・作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。	中間考査
	6	4 表現の多様性「夢十夜」 5 日本と世界 「外国語の不思議 日本語の不思議」 6 文学と人生「城の崎にて」	・作品の表現に着目しながら読み味わう。 ・日本語と外国語の特徴を捉え、日本語を相対化し見つけ直す視点を養う。 ・主人公の心情変化を、動物や自然との関わりから読み取る。	
	7	探究「災害の記録」	・異なる時代に書かれた記録文を読み、災害が人々に及ぼした影響について考える。	期末考査 夏季課題学習
第 2 学 期	9	1 古文に親しむ 「宇治拾遺物語」 2 自然へのまなざし 「徒然草」「枕草子」	・古文の仮名遣いや、特有の言い回しに慣れる。物語の展開を捉える。 ・自然の情景に対する作者の感覚を捉える。	夏季課題提出
	10	3 想いを表す言葉(一) 「恋するころ」 「四季の移ろい」 「旅と別れ」	・和歌の印象的な部分について考える。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・自分の感じたことを言葉にする。	中間考査
	11	4 人との交わり 「伊勢物語」 「源氏物語への招待」	・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・『源氏物語』の概要を知り、他の作品に与えた影響について考える。	
	12	5 語り継がれる歴史 「平家物語」	・特徴的な文体のリズムを味わう。 ・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・登場人物の会話や行動を整理し、どのように描かれているか読み取る。	期末考査 冬季課題学習
第 3 学 期	1	6 旅と人生 「土佐日記」「更級日記」 1 漢文に親しむ 「私たちと漢文」「論語」	・旅に出るまでのならわしや、旅立ちに際しての思いを読み取る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。 ・漢文に親しむ。	冬季課題提出
	2	2 現代に生きる言葉 「蛇足」「完璧」 3 想いを表す言葉(二) 漢詩	・漢文訓読のきまりを知り、この話から生まれた言葉への理解を深める。 ・漢詩の形式や詩の特徴を理解し、読み味わいながら表現の工夫を読み取る。	
	3	4 文学と社会 「雑説」	・論理の展開を読み取る。 ・作者の主張を読み取る。	学年末考査 春季課題学習

教科名 **地歴公民** 科目名 **地理総合** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **地理総合(東京書籍)**

副教材(発行所) **地理総合ワークノート(東京書籍)**

学習目標	必修科目として、高等学校の地理をこの科目だけで終える生徒および引き続き地理探究を履修する生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の地理的に考える資質・能力の基礎を培う。
観点別評価	知識・技能 地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能などを各学期の定期考査、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現 地理的事象の意味や意義、特色や関連性を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、表現したりすることができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度 自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて主体的に追究し、地理的事象を多面的・多角的に考察や深い理解に基づき判断しようとし、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組み、ノートや課題等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界 第2章 地図や地理情報システムの役割	緯度・経度、地球儀と世界地図、日本の位置と領域 [発展]適切な地図を選ぼう 地図種類、地形図ルール、主題図種類と読取、地理情報システムと地図 [発展]地形図を読み取ろう、WebGISを使ってみよう	【GW探究課題】
	5	第3章 資料から読み取る現代世界	交通の発達、情報通信の発達、国境を超える人々の移動、拡大する貿易、つながる世界・多極化する世界 [発展]グラフを読み取ろう、統計地図を読み取ろう、階級区分図を作ろう	中間考査
	6	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地球的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	文化の地域性と多様性、宗教と人々の暮らし、山地の暮らし、平野の暮らし、海岸の暮らし	
第1学期	7	3節 生活文化と自然環境②気候	多様な気候とその分布、熱帯の人々の暮らし、乾燥帯の人々の暮らし、温帯の人々の暮らし、亜寒帯・寒帯の人々の暮らし [発展]雨温図を読み取ろう	期末考査
	9	4節 生活文化と産業	食生活と農業の分布、工業立地の変化、商業立地と人々の生活、情報産業の発達と生活文化の変化	【夏季探究課題】提出
第2学期	10	第2章 様々な地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	地球環境問題(1)、地球環境問題(2)、資源・エネルギーの偏在、化石燃料から再生可能エネルギーへ	中間考査
	11	3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題	発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、食糧需給をめぐる問題、発展途上国の居住・都市問題、先進国の居住・都市問題 [発展]人口ピラミッドを読み取ろう	
	12	6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	民族問題・難民問題、地球的課題と国際協力 [発展]民族問題、持続可能な社会	期末考査
第3学期	1	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	日本の地形の特色、日本の気候の特色	【冬季探究課題】提出
	2	2節 様々な自然災害と防災	地震災害・津波災害(1)、地震災害・津波災害(2)、火山の災害とめぐみ、気象災害(1)寒さ・暑さと台風、気象災害(2)大雨と洪水・土砂災害、都市と自然災害、防災・減災と復旧・復興 [発展]ハザードマップを読み取ろう	
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	調査テーマの設定①、地域調査1(資料調査)、地域調査2(野外調査)、まとめと発表	学年末考査

教科名 **地理歴史** 科目名 **歴史総合** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **詳説歴史総合(東京書籍)**

副教材（発行所） **詳説歴史総合 要点整理ノート(東京書籍)**

学習目標	必修科目として、世界とそこの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を培う。	
観点別評価	知識・技能	近現代の歴史を理解しているかどうかを、各学期の定期考査や単元別の小テスト・課題提出で評価し、要点整理ノート各項目の最後にある「TRY」の答えなどを提出させて、効果的に調べまとめる技能を評価する。
	思考・判断・表現	近現代の歴史の意味や意義をを考察、構想したことを説明したり、表現したりすることができるかを、定期考査の記述問題や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、近現代の歴史を学習しているという自覚をもっているか、主体的に追及・解決しようとしているかを、学習活動中の取り組みやノート・課題等で評価する。
留意事項	単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	序章 歴史の扉 1節 歴史と私たち 2節 歴史の特質と資料	・前近代の日本と世界のつながり ・前近代の世界 ・歴史と深くかかわる植物	【GW探究課題】
	5	第1章 近代化と私たち 1節 近代化への問い 2節 結びつく世界と日本の開国	・18世紀のヨーロッパとアジア ・産業革命のはじまり ・東アジアの国際秩序の変化 日本の開国 ・世界経済の変化と日本の産業革命	中間考査
	6	3節 国民国家と明治維新	・市民革命と近代社会 ・自由主義とナショナリズム ・明治維新と東アジアの国際関係 ・帝国主義と植民地	
	7	4節 近代化と現代的な諸課題	・帝国主義諸国の競合と国際関係 ・20世紀はじめの世界	期末考査
第2学期	9	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開 ・国際協調体制の形成 ・ソヴェト連邦の成立と社会主義 ・民主主義の拡大と社会変革の動き	【夏季探究課題】 提出
	10	3節 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌 ・国際協調体制の崩壊 ・日中戦争と深刻化する世界の危機 ・第二次世界大戦の勃発	中間考査
	11		・アジア太平洋戦争と日本の敗戦 ・連合国の占領政策と日本の戦後改革 ・冷戦のはじまりと東アジアにおける展開 ・再編されるアジア	
	12	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・花ひらく大衆文化	期末考査
第3学期	1	第3章 グローバル化と私たち 1節 グローバル化への問い 2節 冷戦と世界経済	・冷戦の拡大と第三勢力 ・キューバ危機と核兵器の管理 ・冷戦下の日本とアジア ・ベトナム戦争と冷戦構造の変容	【冬季探究課題】 提出
	2	3節 世界秩序の変容と日本	・石油危機と経済の自由化 ・アジアの経済発展と日本 ・冷戦の終結と世界 ・拡散する地域紛争	
	3	4節 現代的な諸課題の形成と展望	・この時代の生活・文化	期末考査

教科名 **数 学** 科目名 **数 学 I** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **3** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **深進数学 I（啓林館）**

副教材（発行所） **Grasp I A（啓林館）**

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明（表現）することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価（自己評価）・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第2章 2次関数 第1節 関数とグラフ 第2節 2次関数の最大・最小	関数，2次関数のグラフ，2次関数の決定 【探究】グラフの平行移動・対象移動 2次関数の最大・最小，最大・最小の応用 【探究】定義域が変化するときの最大・最小	準備課題提出 確認テスト
	5	第3節 2次関数と方程式・不等式	2次方程式，2次関数のグラフとx軸の共有点 [発展]放物線と直線の共有点 【探究】絶対値を含む関数のグラフ 2次不等式とその解 【探究】2次方程式の解の存在範囲	中間考査
	6	第3章 集合と命題 第1節 集合と命題	集合と命題 逆・裏・対偶 [発展]「すべて」と「ある」 [探求]背理法の応用	
	7	第4章 図形と計量 第1節 鋭角の三角比 第2節 三角比の拡張	三角比の定義・相互関係 半円と座標を用いた三角比の定義	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3節 正弦定理と余弦定理 第4節 図形の計量	正弦定理と余弦定理 [発展]三角形の形状 図形の面積と計量 [発展]三角形の内接円の面積・ヘロンの公式	夏季課題提出 確認テスト
	10	第5章 データの分析 第1節 データの整理と分析 第2節 統計的探求プロセス	度数分布表とヒストグラム・代表値・四分位数・分散と標準偏差 データの相関と散布図・相関係数・相関と因果関係・仮説検定 [探求]データの散らばり具合の指標 [探求]PPDACサイクルの利用	中間考査
	11	<数学II>第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式	3次の乗法公式と因数分解 二項定理 [探求]パスカルの三角形の特徴	
	12		多項式の除法 分数式の計算	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第2節 式と証明	恒等式 等式の証明 不等式の証明 [探求]相加平均と相乗平均の利用	冬季課題提出 確認テスト
	2	第3節 高次方程式	複素数 2次方程式の解と判別式 2次方程式の解と係数の関係 [探求]2次方程式の実数解の符号	
	3		剰余の定理と因数定理 [参考]組立除法 高次方程式 [探求]共役な複素数の利用	学年末考査 課題学習

教科名 **数 学** 科目名 **数 学 A** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **深進数学A(啓林館)**

副教材（発行所） **Grasp I A(啓林館)**

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。		
観 点 別 評 価	知識・技能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。	
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。	
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	集合の要素の個数 場合の数 和の法則・積の法則 [探求]正の約数の個数	準備課題提出 確認テスト
	5	第2節 順列・組合せ	順列 いろいろな順列 [探求]立体の塗分け 組合せ 同じものを含む順列 [発展]重複組合せ [探求]最短経路の総数	中間考査
	6	第3節 確率とその基本性質	事象と確率 確率の基本性質 [探求]同様に確からしいとは	
	7	第4節 いろいろな確率 第5節 期待値	独立な試行 反復試行 [探求]反復試行の応用 条件付き確率 [探求]条件付き確率の利用 期待値	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質	直線と角 三角形の重心・外心・内心 [探求]三角形の五心 チェバの定理とメネラウスの定理 三角形の成立条件	
	10	第2節 円の性質	円周角の定理とその逆 円に内接・外接する四角形 接線と弦のなす角 方べきの定理 2つの円の位置関係	中間考査
	11	第3節 作図 第4節 空間図形	作図 [探求]作図と証明 空間における平面・直線の位置関係 多面体	
	12		[探求]三垂線の定理 [探求]空間図形の捉え方	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第3章 数学と人間の活動 第1節 数学と歴史・文化	位取り記数法 ユークリッドの互除法 地球を測る	
	2	第2節 数学とゲーム・パズル	石取りゲーム マスの敷き詰め	学年末考査
	3		1年の総復習	

教科名 **理 科** 科目名 **物 理 基 礎** **必 修**

科 別 **普 通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **改訂 新編 物理基礎(東京書籍)**

副教材（発行所） **新課程版 ネオパルノート物理基礎(第一学習社)**

学 習 目 標	主体性を持ち、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動などを科学的に探究するために必要な資質・能力を養い、日常生活や社会との関連を図りながら科学的素養を養う。		
観 点 別 評 価	知識・技能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができていないかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。	
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。	
留 意 事 項	年間5回を予定している実験レポートは考査と同じ扱いであるので、必ず提出すること。丸写し等の不正厳禁。		

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考	
第 1 学 期	4	1節 運動の表し方 2節 変位と速度 3節 等速直線運動	運動の表し方を学び、運動の様子を定量化して調べる方法を理解する。 変位と速度の概念を理解し、活用する。 等速直線運動を定量化して表す。	【教材】映像教材、スマートカート(通年)	
		5	4節 合成速度と相対速度 5節 速度が変わる運動 6節 自由落下運動	合成速度・相対速度について理解する。 徳加速度直線運動について学び、式での表現を理解する。 自由落下運動について実験を通して理解し、重力と等加速度運動についての理解を深める。	【実験】斜面を下る台車の運動、重力加速度の測定 ○中間考査
			6	7節 鉛直投射 9節 力とつり合い 10節 力の合成と分解 11節 垂直抗力と弾性力 12節 慣性の法則	鉛直投射について理解し、式で表し活用する。 力を見つけ図示する方法を学び、静止物体にはたらく力がつりあうことを理解する。 垂直抗力と弾性力について理解する。 慣性について日常との関りを持って理解する。
	7	13節 運動の変化と力 14節 作用反作用の法則		運動が変化するとき力がはたらくことを実験を通して理解する。 運動方程式の立て方を学び、簡単な物体の運動について、運動方程式を用いて分析する。 作用反作用の法則について日常との関りを持って理解する。	【実験】弾性力の測定、力と加速度の関係 ○期末考査
	第 2 学 期	9	15節 動摩擦力とその性質 16節 静止摩擦力とその性質 19節 仕事 20節 仕事率	動摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 静止摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 物理での仕事の定義を学び、仕事を用いて運動の様子を理解する。 仕事率の定義を学び、日常との関りをもって理解する。	17節、18節は扱わない
			10	21節 運動エネルギー 22節位置エネルギー 23節力学的エネルギーの保存 24節いろいろな運動で見る力学的エネルギー	運動エネルギーの定義を学び、運動をエネルギーを通して理解する。 位置エネルギーの定義を学び、重力と弾性力による位置エネルギーを理解する。 力学的エネルギーの保存について実験・観察を通して理解する。 様々な運動におけるエネルギーの移り変わりを理解する。
		11		1節 温度と熱 2節 熱と物質 3節 熱の移動と保存 4節 熱と仕事 5節 熱機関と可逆変化	熱と温度の概念を学び、その違いを理解する。 熱による物質の変化の様子を学び、物質の3態を理解する。 比熱の概念を学び、熱の移動と熱量の保存を実験を通して理解する。 熱力学第一法則を学び、熱と仕事の関係を理解する。 熱機関のしくみを日常との関りを通して学ぶ。
12				6節 いろいろな波 7節 波の表し方 8節 横波と縦波	波動現象の特徴を日常や実験・観察を通して理解する。 波を言葉やグラフ、数式を用いて表す方法を学ぶ。 横波と縦波の特徴を理解し、違いを学ぶ。
第 3 学 期		1	9節 波の重ね合わせ 10節 定在波 11節 波の反射	波の重ね合わせを日常との関りを通して理解し作図による合成を学ぶ。 定在波の生じる理由を気づきを通して学び、その特徴を理解する。 波の反射を日常との関りを通して学び、反射波の作図を学ぶ。	【教材】ウェーブマシン、シミュレーション
	2		12節 音波 13節 弦の固有振動 14節 気柱の固有振動	波としての音の特徴を学び、音を物理的に捉える考え方を学ぶ。 弦楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、その特徴を理解する。 管楽器が音を奏でる理由を実験・観察を通して明らかにし、疎の特徴を理解する。	【教材】共鳴おんき、弦定常波実験器 【実験】弦の固有振動、気柱の固有振動
		3			○学年末考査

教科名 **理 科** 科目名 **化 学 基 礎** **必 修**

科 別 **普 通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **化学基礎(数研出版)**

副教材（発行所） **新課程版 アプローチドリル化学基礎①～③(第一学習社)**

学 習 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考査、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考査の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや実験、課題等の実施時期については、進捗の状況のみを教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 1. 純物質と混合物 2. 物質とその成分	物質の分類とその分離法について理解する 物質の基本的な成分について理解する	実験(混合物の分離)
	5	3. 物質の三態と熱運動 第2章 物質の構成粒子 1. 原子とその構造	物質の状態とその変化について理解する 原子の構造を学び、原子ごとの構造の違いを考える	実験レポート提出 中間考査
	6	2. イオン 3. 周期表 第3章 粒子の結合 1. イオン結合とイオン結晶	イオンの成り立ちとイオンの表し方を学ぶ 周期表がどう決まりで元素を並べているか理解する	確認テスト
	7	2. 共有結合と分子 3. 配位結合、4. 分子間にはたらく力 5. 高分子化合物、6. 共有結合の結晶 7. 金属結合と金属結晶	共有結合と、分子の表し方や形について学ぶ 配位結合の成り立ち、分子間力と分子結晶の性質を理解する 高分子化合物の成り立ちや構造、共有結合の結晶の性質を理解する 金属結合と金属結晶の性質を理解する	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量	原子の質量の表し方の工夫について理解する 物質質量を用いた数の表し方について理解する	夏季課題提出 確認テスト
	10	3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と物質質量	溶液の濃度の表し方(2種類)について理解する 化学反応式が表す量的関係について理解する	中間考査
	11	第2章 酸と塩基の反応 1. 酸・塩基 2. 水素イオン濃度とpH	酸・塩基の定義と性質、その種類について理解する pHと水溶液の性質の関係について理解する	確認テスト
	12	3. 中和反応と塩 4. 中和滴定	中和反応のしくみと塩の性質について理解する 中和反応の量的関係と中和滴定について理解する	実験(中和滴定) 実験レポート提出 期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤	電子に着目して酸化・還元を考え方を理解する 酸化剤や還元剤のはたらきや量的関係について理解する	冬季課題提出 確認テスト 実験(酸化剤と還元剤の反応)
	2	3. 金属の酸化還元反応 4. 酸化還元反応の利用	さまざまな金属の反応性について理解する 電池や金属の製錬など酸化還元反応の利用について理解する	実験レポート提出
	3			学年末考査 課題学習

教科名	理 科	科目名	生 物 基 礎	必修
科 別	普 通	科 学 年	4 年	コース名 一 貫 コース 2 単位 文 理 共 通

教科書（発行所） **高等学校 生物基礎（第一学習社）**

副教材（発行所） **セミナー 生物基礎（第一学習社）**

学 習 目 標	生物や生命現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する興味、関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。演習を通じて、大学入試問題を解凍できる能力を育成する。
観 点 別 評 価	知識・技能 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)
留 意 事 項	単元別の小テストや課題、ノート提出等の実施時期については、教科担当者が指示を行う。 実験は授業進捗の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 ①生物の多様性と共通性 ②生物の共通性の由来	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が息絶しており、生物は多様であることを学ぶ。 生物が共通にもつ特徴を学ぶ。 原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を学ぶ。 	
	5	2. 生物とエネルギー ①生物とエネルギー ②代謝とATP ③代謝と酵素	<ul style="list-style-type: none"> 代謝には同化と異化があること、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを学ぶ。 光合成、呼吸の反応、ATPの合成について学ぶ。 酵素の基本的な特徴について理解する。 	中間考査
第 2 学 期	6	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体と構造 ①遺伝情報とDNA ②DNAの複製と分配	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とDNA、染色体の関係を理解する。 DNAの基本的な構造を理解する。 多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖し、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 分裂している細胞の各過程で起こる現象を理解する。 	
	7	2. 遺伝情報とタンパク質 ①遺伝情報とタンパク質 ②転写と翻訳 ③遺伝子とゲノム	<ul style="list-style-type: none"> 生体内には多種多様なタンパク質が存在していることを理解する。 DNAの転写、翻訳の流れを理解し、タンパク質がどのように合成されているかを学ぶ。 遺伝子がゲノムの一部であることを理解する。 	期末考査
第 3 学 期	9	第3章 ヒトのからだの調節 1. 情報の伝達と体内環境の維持 ①恒常性と神経系 ②恒常性と内分泌系	<ul style="list-style-type: none"> 体内の状態が一定の範囲内で保たれるという恒常性について学ぶ。 体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。 	
	10	③体内環境を調節するしくみ 2. 免疫 ①生体防御	<ul style="list-style-type: none"> 血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。 皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 	中間考査
	11	②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活	<ul style="list-style-type: none"> 免疫に関する細胞や器官の種類と働きを理解する。 自然免疫、獲得免疫のしくみを理解する。 免疫に関する身近な疾患、免疫と医療の関わりについて学ぶ。 	
第 3 学 期	12	第4章 植生と遷移 1. 植生と遷移 ①植生と環境の関わり ②遷移のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> 植生の種類と構造について学ぶ。 陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 植生は一定ではなく、移り変わっていることを具体例に基づいて理解する。 	期末考査
	1	2. バイオーム ①遷移とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系と生物の多様性 ①生態系の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> 地球上において年平均気温、年降水量から、その地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布を理解する。 生態系の構成について理解する。 	
	2	②生態系における生物どうしの関わり 2. 生態系のバランスと保全 ①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	<ul style="list-style-type: none"> 生物は、食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。 キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。 生態系保全の国際的な取り組み、絶滅危惧種の保全について学ぶ。 	
3				学年末考査

教科名 **保健体育** 科目名 **体育（男子）** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **新高等保健体育(大修館)**

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかり行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・体づくり運動 ・新体力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレス safely 行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 	
	5	・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スクワッド safely 行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツの発祥と成立 	
	6	・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・デッドリフト safely 行うことができる。 ・安定したボール操作を身につける。 ・様々な部位を使って自分の思い通りにボールを操作できるようにする。 ・スポーツ文化の発展と現代社会 	
	7	・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレス、スクワッド、デッドリフトからなるbig3で自己の限界に挑戦する。 ・状況に応じたボール操作をできるようにする。 ・さまざまな状況でゴールに向かってシュートが打てるようにする。 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会 	
第 2 学 期	9	・体づくり運動 ・陸上(投てき)	<ul style="list-style-type: none"> ・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、メディシンボールを突き出して投げることができる。(グライド投法) ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 	
	10	・体づくり運動 ・陸上(走り高跳び) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・リズムカルな助走、はさみ跳びやベリーロールで跳ぶことができる。 ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・競技会を安全かつスムーズに運営することができる。 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業 	
	11	・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・big3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・スポーツに求められる高潔さ 	
	12	・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・持続可能性からみたスポーツと環境 	
第 3 学 期	1	・体づくり運動 ・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・2キロ走を2週にわたって実施する。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とする。 ・完走後の達成感やリラクゼーション効果も体感させる。 	
	2	・体づくり運動 ・武道(剣道)	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・防具を正しく、素早く着けることができる。 ・防具を正しく、素早く片づけることができる。 ・面打ち、胴打ちを用いて攻防を行うことができる。 	
	3	・体づくり運動 ・武道(剣道)	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・45秒刻みでの地稽古で相手の動きに応じて攻防を繰り広げることができる。 	

教科名 **保健体育** 科目名 **体育（女子）** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **新高等保健体育(大修館)**

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・集団行動、自校体操、体づくり運動 ・新運動能力テスト 50M走、ハンドボール投げ、立幅跳び、反復横跳び 上体起こし、握力、持久走もしくはシャトルラン	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列、挨拶、列の増減など授業が安全かつ能率的におこなえるよう集団行動を身につける。 ・本校独自の準備体操を体得する。 ・体の構造、運動の原則について理解できるようにする A:体の柔らかさ B:巧みな動き C:力強い動き D:持続する運動 ・現状の体力・運動能力を測定し、自己の結果を踏まえ体力向上に努める。 ・1スポーツの発祥と成立 2スポーツ文化の発展と現代社会 について理解する。 	
	5	・体育理論		
	6	・球技 【ホッケー】 A)スティックの扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	<ul style="list-style-type: none"> ・スティックを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
第 2 学 期	9	・陸上競技 【走り高跳び】 A)はさみ跳び・ベリーロールの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の跳び方について、助走方法や空中姿勢、着地について正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。 	
	10	【投てき】 A)砲丸投げの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・砲丸投げの投げ方を正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。 	
	11	・体育理論 ・ダンス 【リズムダンス】	<ul style="list-style-type: none"> ・3オリンピック・パラリンピックと国際社会 4スポーツの経済効果とスポーツ産業 について理解する。 ・エアロビクスの基本ステップを覚える ・基礎ステップを大きな動作で表現することができる。 ・習得した基礎ステップをつなげて踊ることができる。 	
第 3 学 期	1	・持久走 ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走やインターバルトレーニングなどを取り入れ、心肺機能の向上、健康保持増進を図る。与えられた課題に前向きに取り組む、自己の能力を最大限に発揮することができる。 ・5スポーツに求められる高潔さ 6持続可能性からみたスポーツと環境 について理解する 	
	2	【卓球】 基本技術(フォアハンド・ハーフボレー・ツッツキ) サーブ・レシーブ ダブルスでの攻防 ゲーム形式練習(ルールの理解) リーグ戦	<ul style="list-style-type: none"> ・基本技術を正しく身につけられる。 ・ネット型球技における攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
	3			

教科名	芸 術	科目名	音 楽 I	必修選択					
科 別	普 通 科	学 年	4 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文 理 共 通
教科書(発行所)	音楽 I Tutti+ トウッティプラス (教育出版)								

学 習 目 標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成し、心のゆとりと豊かな情操を養うことを目指す。	
観 点 別 評 価	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や関連性を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項	・プリント保管用のファイルを用意すること。 ・観点別評価については、学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・中学校までの復習テスト・教科ガイダンス ・楽器学 ・歌唱 ・ボディーパーカッション	・中学校までの学習内容確認 年間計画、評価方法等について説明 ・オーケストラの楽器紹介 ・校歌を覚える。素直な発声を心掛ける ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする	
	5	・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・歌唱	・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・近代・現代音楽 ・反復記号 ・日本語の歌を取り上げ、曲想の理解と個性豊かな表現を目指す	映像による鑑賞
	6	・歌唱 ・実技テスト(歌唱) ・楽典 ・ミュージカルの世界	・日本人作曲家の紹介 ・暗譜で一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・音名(日本・イタリア・ドイツ)、調号 ・ミュージカルの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る	映像による鑑賞
	7	・楽典 ・1学期の復習、小テスト	・音符の計算 ・楽典の理解力を図る	
第 2 学 期	9	・楽典 ・歌唱(イタリア歌曲) ・歌唱(ドイツリート)	・リズム譜 ・イタリアカンツォーネについて解説。イタリア語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す ・ドイツリートについて解説。ドイツ語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す	
	10	・実技テスト(歌唱) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・箏曲	・一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・ロマン派の音楽 ・関係調 ・箏と琴の基礎知識	映像による鑑賞
	11	・箏曲 ・実技テスト(箏曲) ・鑑賞、音楽史 ・楽典	・箏の練習(荒城の月)、楽譜の読み方、奏法を覚える ・一人ずつ伴奏に合わせて実施 ・中世、ルネサンス、バロック、古典派の音楽 ・音程	映像による鑑賞
	12	・バレエの世界 ・ボディーパーカッション ・2学期の復習、小テスト	・バレエの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする ・楽典の理解力を図る	映像による鑑賞
第 3 学 期	1	・ボディーパーカッション ・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞	・2学期からの継続 ・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・民族音楽(アフリカ・アジアの音楽)	映像による鑑賞
	2	・実技テスト(歌唱) ・創作	・自由曲。曲想を歌詞の内容とかわらせて、イメージを持って音楽を表現する 一人ずつ実施 ・二部形式の歌を作曲	作品提出
	3	・オペラの世界	・オペラの歴史を学ぶと共に一つの作品のハイライトを鑑賞し、面白さを感じ取る	

教科名 **芸 術** 科目名 **美 術 I** **必修選択**

科 別 **普 通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **高校美術(日本文教出版)**

学 習 目 標	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と広くかかわる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
観 点 別 評 価	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わすことができるようにする。
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識を持って美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
留 意 事 項	観点別評価については、学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	オリエンテーション 立体感のある構成 〈絵画〉	高校の美術の意義、内容、制作、鑑賞など全般にわたって説明し理解を得る。 斜投影法を生かして立体感のある図形を構成し描く。	講評と観賞
	5	模写「白貂を抱く貴婦人の肖像」 〈絵画〉	教科書表紙・レオナルド・ダ・ヴィンチ作品を鉛筆にて模写。 よく観察して描くことによって、制作者の狙いや心情を理解。 原画の色彩、明暗表現をモノトーンで描く。	
	6	同	細部までよく観察し、描くことにより、その良さを感じ取り、自己の表現力を高める。 グリッド線を利用し、正確に形を写し取る。	講評と観賞
	7	文字のデザイン、色彩 進化する文字 〈デザイン〉	様々な文字のデザイン、色彩を学ぶ。 漢字がもともと絵や図から変化して文字となった経緯を理解する。好きな漢字を選びそのもともなった絵や図を自由に発想する。	講評と観賞
第 2 学 期	9	進化する文字の続き	下図を本紙にトレース。漢字の配色、画面全体の構成を考え彩色する。	
	10	手の彫刻 〈彫刻〉	自分の左手(又は右手)をモデルにして、三方向から見た形を鉛筆デッサン。立体感を感じ取る。	
	11	同	ポーズを考えて、骨格等をよく観察し、粘土で肉付けをする。手首までの充分な大きさ、様々な角度から観察をする。	
期	12	バラバラ(アニメーション) 〈デザイン〉	24コマを基本として画像撮りをする。	
第 3 学 期	1	自由制作(平面・立体可) 〈絵画〉 〈彫刻〉 〈デザイン〉 〈映像〉	各自のテーマに従って作品をつくる。 アイデア・スケッチをし、具体的な素材、材料を用意し、制作していく。	
	2	同	細部と全体を意識し、表面的な表現にならないようにする。	
	3	同	自他の作品を鑑賞する。	講評と観賞

教科名 **外国語** 科目名 **英語コミュニケーション I** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **4** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **FLEX ENGLISH COMMUNICATION I (増進堂)**

副教材（発行所） **英文法・語法Vintage(いわずな書店) / 入門英文問題精講(旺文社)**

学習目標	英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を的確に理解する能力、英語で自身の意見を適切に表現し発表する能力を総合的に培う。	
観点別評価	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることが出来るかを、小テストや定期考査で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみを教科担当者が指示する。(小テストにはスピーキングテストも含む。)観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	Lesson 2 The Jar of Life	【文法事項】動名詞 / 間接疑問文 人生の中で、優先順位を考えることの大切さを学び自分たちでも実際に考える。	準備課題提出 確認テスト
	5	同上	同上	中間考査
	6	Lesson 3 It's Always Sunny In Space!	【文法事項】後置修飾 / 現在完了形 地球を守るためにはどんなことを意識すればよいかを考える。	
	7	Lesson 4 Malala : Fighting for Women's Rights	【文法事項】関係代名詞 / 過去完了形 マララの生き方を通して、教育を受ける意義や情勢の権利について考える。	期末考査 課題学習
第2学期	9	Lesson 5 Mount Fuji	【文法事項】使役動詞 / 節を導く形式主語it 富士山が人々に与えてきた影響や世界文化遺産に選ばれた理由を考える。	夏季課題提出 確認テスト
	10	Lesson 6 Thomas the Tank Engine and SDGs	【文法事項】関係代名詞what / 強調構文 テレビ番組を通してSDGsの問題について幅広い視点を養いながら考える。	中間考査
	11	Lesson 7 Virttual Water	【文法事項】関係代名詞非制限用法 / 関係副詞 "仮想水"という考え方を知り、水がどれだけ大切なものであるかを考える。	
	12	Lesson 8 Wearable Robots May Change Our Life	【文法事項】仮定法過去 / 仮定法過去完了 日本で起きている社会問題を知り、"wearable robots"の有用性を考える。	期末考査 課題学習
第3学期	1	Lesson 9 Biomimicry - Inspired by Nature	【文法事項】知覚動詞 / 分詞構文 生態系から得られた学びがどのように実生活に生かされているかを知り、様々な問題への解決策を考える。	冬季課題提出 確認テスト
	2	Lesson 10 Donald Keene and His Love of Japan	【文法事項】前置詞 + 関係代名詞 / 完了進行形 Donald Keeneの生涯を知り、彼が日本や世界にどのような影響を与えたのかを考える。	
	3	同上	同上	学年末考査 課題学習

教科名 **外国語** 科目名 **論理・表現 I** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **be English Logic and Expression I Smart (いいずな書店)**

副教材（発行所） **英文法・語法Vintage / be English Logic and Expression I Smart Grammar Book / 総合英語be English Grammar 46 workbook (いいずな書店)**

学習目標	学習した文法規則や表現方法を活用しながら、自分の考えや意見等を英語を用いて能動的に発信しようとする態度を培うとともに、論理展開や表現方法を工夫しながら自分の考えや意見を英語で伝える力を養う。	
観点別評価	知識・技能	自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や表現について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にししながら、正しい情報や自分の考えを伝えあうことが出来ているかどうかを、小テストや定期考査、授業中の取り組み等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考	
第1学期	4	Introduction 「やり取り」「発表」「書く」ためのウォーミングアップ Lesson 1 Meeting People	英語の語順/名詞・形容詞・副詞・動詞の使い方/英語の文の種類/ 英語の文のつなぎ方(接続詞・接続副詞) 現在形/現在進行形/状態動詞・動作動詞	準備課題提出 確認テスト	
	5	Lesson 2 Holidays and Weekends Lesson 3 Making Plans	過去形/過去進行形/used to doを用いた表現 未来を表す表現(will/be going to do)/未来進行形/ 時や条件を表す副詞節の中の時制	中間考査	
		6	Lesson 4 Travel Lesson 5 Study and Activities Review① Lesson 6 Food	現在完了形(完了・経験・継続)/現在完了進行形/過去形と完了形 過去完了形/過去完了進行形/大過去/未来完了形 Lesson 1-5の復習(時制の復習) 助動詞の用法①(可能/可能性/過去の推量)	
	7		Lesson 7 School Life Lesson 8 Daily Life Lesson 9 Transportation Issues Review②	助動詞の用法②(命令/禁止/断定/推測/過去の後悔・確信) 助動詞の用法③(意志/過去の習慣/依頼・提案) 受動態/進行形・完了形を用いる受動態/感情を表す受動態 Lesson 6-9の復習(助動詞と受動態の復習)	期末考査 課題学習
	第2学期	9	Lesson 10 The Future Lesson 11 Staying Healthy Lesson 12 New Products	不定詞①(名詞用法/疑問詞+不定詞/意味上の主語/否定形) 不定詞②(形容詞用法/副詞用法(目的・原因)/形容詞+不定詞) 不定詞③(SVO+不定詞/使役動詞・知覚動詞と原形不定詞/ 不定詞の進行形・受動態・完了形)	夏季課題提出 確認テスト
		10	Lesson 13 Hobbies and Interests Lesson 14 The World of Nature Lesson 15 Trouble and Accidents Review③	動名詞/動名詞の意味上の主語/動名詞の受動態・完了形 分詞①(限定用法/分詞形容詞/叙述用法/分詞を使う表現) 分詞②(SVO+分詞/知覚動詞と分詞/分詞構文/付帯状況のwith) Lesson10-15の復習(準動詞の復習)	中間考査
			11	Lesson 16 Technology and Invention Lesson 17 Achievements	関係詞①(関係代名詞(主格・目的格・所有格)/前置詞と関係代名詞) 関係詞②(関係代名詞の非限定用法/情報を付け加える which/関係代名詞 what)
12		Lesson 18 Cities and Towns Lesson 19 Living Environment		関係詞③(関係副詞/関係副詞の限定用法・非限定用法/複合関係詞) 比較①(原級/比較級/倍数・分数表現/比較対象の表し方)	期末考査 課題学習
第3学期		1	Lesson20 Social Problems Review④ プレゼンテーションをしてみよう！ Lesson21 Making a Wish	比較②(最上級/原級・比較級・最上級の表現) Lesson 16-20の復習(比較・関係詞の復習) 既習事項を用いて原稿を作り、グループでプレゼンテーションを行う。 仮定法過去/仮定法過去完了/願望を表す仮定/仮定法を用いた表現	冬季課題提出 確認テスト
	2	Lesson 22 Cross-cultural Communication Lesson 23 Giving Options Review⑤	接続詞(名詞節のthat・whether/時・理由・条件/譲歩/接続副詞) 提案・要求を表す動詞と用いるthat節/so~thatとso that/It is said that S+V/ It is certain that S+V) Lesson 21-23の復習(文のつなぎ方の復習)		
		3	ディスカッションをしてみよう！	既習事項を用いて与えられたテーマに関してディスカッションを行う。	学年末考査 課題学習

教科名 **家庭科** 科目名 **家庭基礎** **必修**

科別 **普通科** 科 学年 **4** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **家庭基礎 気づく力 築く未来（実教出版）**

副教材（発行所） **生活ハンドブック（第一学習社）**

学習目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭・衣食住、消費生活や環境など生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともにそれらにかかわる技能を身につけるようにする。
観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭・衣食住、消費生活や環境など生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともにそれらにかかわる技能を身につけている。
別	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
評価	主体的に学習に取り組む態度 さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
留意事項	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第9章 消費行動を考える 1節 消費行動と意思決定 2節 消費生活の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な消費行動について多角的に考える。 情報社会における生活情報について知り、その適切な活用方法について考える。 契約、多様な販売方法や支払い方法や支払いについて学ぶ。 問題商法による被害を未然に防ぎ、早期解決する方法を考える。 	
	5	3節 消費者の権利と責任 4節 ライフスタイルと環境	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害の事例を調べ、消費者の権利と責任を考える。 これからの社会に求められる消費者の自覚と行動のあり方を検討する。 日常生活が地球環境やグローバル社会に与える影響について考える。 持続可能な社会の実現に向けた消費行動について考える。 	1学期中間考査
	6	第10章 経済的に自立する 1節 暮らしと経済 2節 将来のライフプランニング	<ul style="list-style-type: none"> 生活における経済と社会のかかわりについて学ぶ。 収入と支出にはどのような項目があるのか学ぶ。 適切な家計管理について考える。 将来のライフイベントや起こりうるリスクと、その費用について考え、長期的な経済計画について学ぶ。 	
	7	生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 金融商品の特徴と選択基準を学ぶ。 家庭基礎の学習を生かして、自分らしい生き方を設計する。 	1学期期末考査
第2学期	9	第6章 食生活をつくる 1節 日本の食文化の形成 2節 私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食文化形成を知り、郷土料理について調べる。 食事調査を通して、各自の食生活の問題点に気づく。 ライフステージごとの食生活の特徴を学ぶ。 	
	10	3節 栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 自身の食事から食品ごとに含まれる栄養素を学び、バランスの良い食事について考える。 食品の調理上の特性を知り、適切な調理を考える。 	第1回調理実習 2学期中間考査
	11	4節 食品の選び方と安全	<ul style="list-style-type: none"> 旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物）について学ぶ。 	第2回調理実習
	12	5節 食事の計画と調理 6節 これからの食生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> 食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 環境に配慮した食生活（食品ロス）について考える。 	りんごの皮むき 実技試験 2学期期末考査
第3学期	1	第2章 自分らしい生き方と家族 3節 共に生きる家族	<ul style="list-style-type: none"> 「家族」の条件とは何か考える。 家族のライフイベントについて考える。 家族が抱える問題を踏まえて、家族を支える仕組みについて具体的に考える。 	
	2	4節 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 家族に関する法律の資料を見ながら、考えをまとめて話し合う。 家族の抱える問題について学び、具体的なサポートのあり方について考える。 	3学期期末考査
	3	4節 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 家族に関する法律の理念や背景・改正点について理解する。 	

教科名 **国語** 科目名 **論理国語** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **中高一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **精選論理国語(明治書院)**

副教材（発行所） **三訂版入試頻出漢字＋現代文重要語彙TOP2500(いっずな書店)**

学習目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力を伸ばす。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。	
観点別評価	知識・技能	論理的な文章における語彙の量を増やす。文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	論理的に文章を読み、文章や資料等の情報の正誤や適否を吟味しつつ考えることができる。批判的に考える力を養い、他者と伝え合うための読解力・文章力を伸ばすようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	1 世界・地域 「2100年の世界地図」(峯陽一) *言語活動 書くこと1 自分の主張を立てよう 2 社会行動 「家族の幸せ」の経済学(山口慎太郎) *言語活動 読むこと1 構成を把握しよう	◇世界や身近な地域が直面する課題を知り、情報を整理する。 ◇学習した文章について、自分の主張をまとめる。 ◇社会において何に基づいて行動しているか考える。	準備課題提出 確認テスト
	5	3 日本文化 「間」の間隔(高階秀爾) *言語活動 書くこと2 さまざまな立場を想定して論を展開させよう。	◇文章の要点を把握する ◇日本の文化について学び、世界の他文化との違いについて考察することによって、ものの見方の視野を広げる契機とする。 ◇文章の構造や展開の仕方を理解する。	中間考査
	6	4 哲学・認知 「猫は後悔するか」(野矢茂樹) 「学びとは何か―(探究人)になるために」(今井むつみ)	◇人はどのように見て、どのように考えているかを知る。 ◇論理の展開を意識する。	
	7	「生命倫理と自由」(大澤真幸) *言語活動 読むこと2 根拠を検討しよう	◇学習した文章について、哲学についての自分の考えを論述する。 ◇批判的に検討する。	期末考査 課題学習
第2学期	9	5 環境・科学 「なぜ科学を学ぶのか」(池内了) *言語活動 読むこと3 多角的に評価しよう 6 技術・規範 「いのちのかたち」(西谷修) *言語活動 書くこと3 総合的に推敲しよう	◇自然の中での人間のあり方について考える。 ◇技術の発展によって何が起こるのか考える。 ◇本文内容を階層化して整理し、理解する。	夏季課題提出 確認テスト
	10	7 芸術 「水墨画入門」(島尾新)、「白」(原研哉)※二教材の読み比べ *言語活動 読むこと4 比較読みをしよう	◇科学技術について資料を集め整理し、それをもとに文章を書く。文章全体の論理の明晰さを確かめ、相互に推敲する。 ◇感性について学ぶ。 ◇関連する資料で裏付けを取る。	中間考査
	11	8 経済・資本 「熱帯の贈与論」(奥野克己) 「貨幣は言葉である」(丸山圭三郎)、「経済学の宇宙」(岩井克人)※二教材の読み比べ *言語活動 書くこと3 総合的に推敲しよう	◇資本主義や経済について考える。 ◇言葉の定義を知る。	
	12		◇文章の内容と自己の思考を戦わせる。	期末考査 課題学習
第3学期	1	1 都市・建築 「近代都市のレトリック・スカイラインと塔状建築」(陣内秀信) *言語活動 読むこと1 要点を把握しよう	◇都市・建築について文化を比較して考える。 ◇文章の効果的な展開のしかたを学ぶ。	冬季課題提出 確認テスト
	2	3 歴史 「歴史を哲学する」(野家啓一)、「史学概論」(遅塚忠躬) ※二教材の読み比べ *言語活動 読むこと3 多角的に評価しよう	◇歴史の見方について学ぶ。 ◇語彙を豊かにする。 ◇多面的に検討する。	
	3	問題演習(共通テスト対策)	・大学入試に対応できる力を養う。	学年末考査 課題学習

教科名 **国 語** 科目名 **文 学 国 語** **必修**

科 別 **普通** 科 学 年 **5** 年 コース名 **一 貫** コース **2** 単位 **文 系**

教科書（発行所） **精選文学国語(明治書院)**

副教材（発行所） **三訂版入試頻出漢字＋現代文重要語彙TOP2500(いっずな書店)**

学 習 目 標	文学作品を読むことを通して深く共感・想像する力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高める。
観 点	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句を知り、語彙を豊かにしている。 教科書の文章の種類や特徴について理解を深め、文体や表現技法を体系的に理解し使えている。
別 評 価	文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解している。 言語文化の特質について理解を深め、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしている。 書くこと・読むことを通して言語文化の特質について理解を深めている。
留 意 事 項	主体的に学習に取り組む態度 自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしていたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	(前編) 1 小説入門 「言葉によって」(大江健三郎) 「山月記」(中島敦) *言語活動 小説の方法を読む	◇小説文の形式を知り、それを読み、書く意味を考える。 ◇典拠である中国唐代の小説『人虎伝』の書き下しや現代語訳と比較し、李徴の性格や虎になった理由を読み取る。	準備課題提出 確認テスト
	5	2 詩歌入門 「詩の自由を探る」(藤井貞和) 「秋の祈」(高村光太郎) 「汚れつちまつた悲しみに……」(中原中也)	◇さまざまな詩に触れ、その歴史性や特徴、独特の効果を学ぶ。 ◇詩的表現が持っている力や可能性について考える。 ◇詩句の反復による効果を理解する。	中間考査
	6	3 文学の境界を広げる 「靴」(安部公房) 「マンガは哲学する」(永井均)	◇心理描写やリアリズム以外のさまざまな表現形式をもつ小説への理解を深め、多様な読みを発見する。 ◇展開や構造の特徴、寓意や象徴などに注目し、作品を読み味わう。	
	7	*言語活動 さまざまなメディアに生息する(文学)を発見する	◇メディア化された文学作品を取り上げ、元の作品とメディア化とを比較する。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	4 言葉の力 「ころ」(夏目漱石) 「東京語」の表象の成立(イ・ヨンスク)	◇近代文学の代表的な作品を通して、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。 ◇抑制された筆致で綴られた文章の心情を読み取る。 ◇言葉が社会の中で、どういう意味を持つのか考える。	夏季課題提出 確認テスト
	10	5 伝統と革新 「短歌の輪郭」(小池光) 短歌十二首・俳句十二句 『桐の花』の言葉(俵万智)	◇近・現代の短歌と俳句を理解し、俳句の実作と相互批評に取り組む。 ◇定型表現が時代を超えて親しみやすさを持つことを理解する。 ◇俵万智の文章を参考に、特に心に残った短歌を一首選び、200字程度の鑑賞文を書く。	中間考査
	11	6 戦争と記憶 「現場に来て初めてわかること」(高野秀行) 「野火」(大岡昇平)	◇戦争をめぐる文学作品を読み、戦争という事象の複雑さについて理解する。 ◇語り手の心情の吐露を注意深く読み取り、心情変化を理解する。	
	12	「転移する記憶」(岡真理) *言語活動 戦争という(出来事)を伝える	◇他者の記憶を語り継ぐ困難と意義に触れ、戦争と自分との関係性を見つめ直す。 ◇岡真理の(出来事)についての考え方を参考にしながら、戦争という(出来事)を考え伝えていく際に有効な方法を模索し、実践する。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	(後編) 1 都市と移動 「本を読む」(蜂飼耳) 「檸檬」(梶井基次郎)	◇作品に表れている登場人物のものの見方や感じ方、地理的特色や時代背景を踏まえて解釈する。	冬季課題提出 確認テスト
	2	「都市は/語る」(石田英敬) *言語活動 暮らす、生きる、そしてそれを描く	◇様々な小説に関連のある「場所」について調べ、その「場所」が作品のどのような影響を与えているか考える。	
	3	問題演習(共通テスト対策)	・大学入試に対応できる力を養う。	学年末考査 課題学習

教科名 **国 語** 科目名 **古 典 探 究** **必 修**

科 別 **普 通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一 貫** コース **3** 単位 **文 系**

教科書（発行所） **精選古典探究古文編(明治書院)、精選古典探究漢文編(明治書院)**

副教材（発行所） **読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版(桐原書店)、基礎から解釈へ 漢文必携四訂版(桐原書店)**

学 習 目 標	日本文化の特質や、中国など諸外国の文化との関係について理解を深め、言葉がもつ文化の継承・発展・創造に寄与する働きを学ぶ。
観 点	知識・技能 古典に用いられる語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
別 評 価	思考・判断・表現 古典の文章に表れているものの見方・感じ方・考え方をふまえ、自分の考えを広げたり深めたりしている。古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品の価値について考察している。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	【古文編】 ◇説話 沙石集「兼盛と忠見」 単元の言語活動 歌合わせの判者になってみる	説話の面白さに親しみ、平安期の人々の生き方や考え方を学ぶ。 動詞・助動詞の意味や用法を理解する。 歌合わせの判者になり、批評文を書くことを通して表現や文法を理解する。	準備課題提出 確認テスト
	5	【漢文編】 ◇故事成語「漱石枕流」「不死之薬」 【古文編】 ◇随筆 徒然草「これも仁和寺の法師」	漢文訓読の決まりを理解する。故事・寓話の面白さを味わう。 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 人々がなぜ無常観という思想を持つようになったのか、時代背景を理解	中間考査
	6	【漢文編】◇史話・史伝 十八史略「背水之陣」 【古文編】 ◇物語 伊勢物語「初冠」/『伊勢物語』のパロディーを読む	漢文句形や漢字の意味・用法を理解する。歴史書の面白さを読み味わう。 和歌の表現上の特色を理解し、ものの見方や感じ方を豊かにする。 パロディーを読み、古典の受け継がれ方や受け入れられ方を学ぶ。	
	7	【古文編】 ◇物語 平家物語「壇の浦」 (建礼門院右京大夫集「この世の外に」)	「壇の浦」を朗読し、平家物語の表現の特徴を味わう。 特有の語彙や語法を理解する。 『平家物語』と『建礼門院右京大夫集』をあわせて読み、戦乱の世に生きる人々の生きざまや心情を読み取る。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	【古文編】 ◇随筆 枕草子「うつくしきもの」 単元の言語活動 「美」の表現の移り変わりを調べる 【漢文編】 ◇近体詩 香炉峰	作者独特の感性を味わう。 「美」を表す言葉の移り変わりを調べ、古語と現代語の違いについて考える。	夏季課題提出 確認テスト
	10	【古文編】 ◇物語 源氏物語「光源氏誕生」「小柴垣のもと」 古文に関する評論「源氏物語を読む」	出来事の展開や人物の心情を捉え、表現の特色を読み味わう。 敬語法を理解する。	中間考査
	11	【漢文編】 ◇史話・史伝 史記「鴻門之会」「四面楚歌」	漢文句形や漢字の意味・用法を理解する。 登場人物の言動や行動から心情・考え方や生き方を読み取る。	
	12	単元の言語活動 『史記』の登場人物の心情と場面を想像して群読する	『史記』の読解をふまえて、登場人物の心情と場面を想像して群読する。 漢文の読みやリズムを身に付ける。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	【古文編】 ◇物語 大鏡「南院の競射」	歴史物語を読み、史実とは異なる豊かな物語性や生き生きとした人物像を読み取る。 敬語における敬意の方向を確認する。	冬季課題提出 確認テスト
	2	【古文編】 ◇詩歌 和歌・歌論「古今和歌集 仮名序」 ◇近世の文学 鹿の子餅	和歌の修辞や表現の面白さを理解し味わう。 近世の咄本を読み、物語の展開の面白さを味わう。 商人や奉公人について知り、作品の読みを深める。	
	3	【漢文編】 漢文の名句・名言 単元の言語活動 「漢文の名句・名言について随筆を書く」	漢文の名句・名言を読むことを通して、自分の考えを広げたり深めたりする。	学年末考査 課題学習

教科名 **地歴公民** 科目名 **地理探究** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **理系**

教科書（発行所） **新詳地理探究(帝国書院)**

副教材（発行所） **新詳地理探求ノート(帝国書院)**

学習目標	地理総合での学習を踏まえ、最新の世界情勢や学術動向をより深く理解し、現代の世界と日本が抱える諸課題の解決に向けて、主体的に取り組む態度が育成し、思考力・判断力・表現力を培う。	
観点別評価	知識・技能	地理用語の理解、基本的な概念の理解などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別的小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた地理の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、地理的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留意事項	単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 知識の獲得が必須だが、用語のみを覚えるのではなく、能動的に国内外の出来事について興味を持ち、新聞やニュースなどから新しい知識を吸収しつつ、知的好奇心を刺激して学習に臨むように心がけること。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第1章 自然環境 序節 地球環境と人間 1節 地形	地球システムのなかで生きる私たち、地形の成因と地球表面の起伏、地球規模の大地形、河川流域と海岸に見られる小地形、そのほかの特徴的な小地形 【探究】気候変動の影響を受けるサンゴの生態	確認テスト
	5	2節 気候	気候の成り立ち、気候と生態系、世界の気候区分、さまざまな気候帯、気候変動と異常気象 【探究】気象や気候と深くかかわる火災	中間考査
	6	3節 日本の自然環境	日本の地形、日本の気候、開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	
	7	4節 地球環境問題	地球環境問題とは、さまざまな地球環境問題、地球環境問題の解決に向けた取り組み 【探究】サヘル緑化への挑戦	期末考査 課題学習
第2学期	9	第2章 資源と産業 1節 農林水産業	農業の発達と分布、農業の地域区分、現代世界の農業の現状と課題、日本の農業の現状と課題、世界と日本の林業、世界と日本の水産業	夏季課題提出 確認テスト
	10	2節 食料問題	世界の食糧問題、日本の食糧問題 【探究】食の安全 【探究】農業と食糧需給の地域性	中間考査
	11	3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題	エネルギー資源の種類と利用、化石燃料の分布と利用、電力の利用、鉱産資源の種類と利用、資源・エネルギーをめぐる問題、日本の資源・エネルギー問題 【探究】発展途上国の農村に明かりを	
	12	5節 工業	工業の発達と種類、工業の立地、世界の工業地域、現代世界の工業の現状と課題、工業の知識産業化とスタートアップ企業、日本の工業 【探究】地場産業における持続可能な発展の模索	期末考査 課題学習
第3学期	1	6節 第3次産業	経済発展と第3次産業、商業の現状と変化、商業以外のさまざまな第3次産業	冬季課題提出 確認テスト
	2	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 2節 観光	世界を結ぶ交通、日本の交通の特徴、情報通信の発達、余暇の拡大と観光産業、日本の観光とその変化 【探究】感染症の拡大と交通・通信などへの影響 【探究】環境保全と観光振興の両立	
	3	3節 貿易と経済圏	世界の貿易と地域間格差、貿易の自由化と経済連携、日本の貿易	学年末考査 課題学習

教科名 **地理歴史** 科目名 **日本史探究** **必修選択**

科別 **普通科** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **4** 単位 **文系**

教科書（発行所） **詳説日本史(山川出版社)**

副教材（発行所） **図説 日本史通覧(帝国書院)・新日本史要点ノート(啓隆社)**

学習目標	歴史総合での学習を踏まえ、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
観点別評価	<p>知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 【探究】古代社会と海外との交流 / 木簡から古代国家を探る	確認テスト
	5	第3章 律令国家の形成	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	中間考査
	6	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	
	7	第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 【探究】絵画から中世社会を探る	期末考査 課題学習
	9	第6章 武家政権の成立①	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	夏季課題提出 確認テスト
第2学期	10	第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	中間考査
	11	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開①	1 織豊政権 2 桃山文化 【探究】生類憐れみの令からみる江戸時代の社会の変化	
	12	第9章 幕藩体制の成立と展開②	1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定	期末考査 課題学習
第3学期	1	第9章 幕藩体制の成立と展開③	4 経済の発展 5 元禄文化	冬季課題提出 確認テスト
	2	第10章 幕藩体制の動揺①	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道	
	3	第10章 幕藩体制の動揺②	4 化政文化	学年末考査 課題学習

教科名 **地理歴史** 科目名 **世界史探究** 必修選択

科別 **普通科** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **4** 単位 **文系**

教科書（発行所） **「世界史探究」実教出版**

副教材（発行所） **「最新世界史図説 タペストリー 二十一訂版」(帝国書院)「新世界史要点ノート」(応用編)**

学習目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	
	思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	
	資料活用の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	
	知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
留意事項	ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。	イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。	ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史が捉えられることに気付かせる。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 古代文明	1 農耕と牧畜のはじまり 2 オリент文明 3 インダス文明 4 中国文明	準備課題提出 確認テスト
	5	第2章 東アジアと中央ユーラシア①	1 春秋・戦国時代の変動 2 中国古代帝国と東アジア 3 中央ユーラシアの国家形成	中間考査
	6	第2章 東アジアと中央ユーラシア② 第3章 南アジアと東南アジア	4 胡漢融合帝国の誕生 1 インド古典文化の形成 2 古代の東南アジアと海のシルクロード	
	7	第4章 西アジアと地中海周辺 ①	1 オリエンの統一 2 ギリシア文明 3 ヘレニズム時代	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第4章 西アジアと地中海周辺 ②	4 ローマ帝国 5 西アジアの国々と諸宗教	夏季課題提出 確認テスト
	10	第5章 西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成	1 ビザンツ帝国とギリシア正教圏 2 ラテン=カトリック圏の形成と展開 3 イスラーム圏の成立 諸地域の交流と再編への問い	中間考査
	11	第2部 諸地域の交流と再編 第6章 イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 ①	1 イスラーム圏の多極化と展開	
	12	第6章 イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 ②	2 ラテン=カトリック圏の拡大 キリスト教圏とイスラーム圏 ―「衝突」と「交流」 3 ラテン=カトリック圏の動揺と秩序の変容	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編①	1 中央ユーラシア諸民族と東アジアの変容 2 モンゴル帝国の成立	冬季課題提出 確認テスト
	2	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編②	●13世紀の世界 ―モンゴルの衝撃と東西交流 3 東南アジア諸国の再編 4 海域世界の展開と大交易圏の成立	
	3	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編③	ACTIVE 4 大交易圏の成立と ムスリム=ネットワーク	学年末考査 課題学習

教科名 **地歴公民** 科目名 **公 共** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **公共(東京書籍)**

副教材（発行所） **公共ワークノート(東京書籍)**

学 習 目 標	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。また、現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、公正に判断する力を身に付け、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
観 点	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
別 評 価	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
留 意 事 項	各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。また現代の諸課題を探究する際のレポートを学期に1回程度課し、評価のための資料とします。授業中の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容も評価のための資料となります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1部「公共」のとり 第1章 公共的な空間をつくる私たち (1)現代社会に生きる青年 (2)社会的な関係のなかで生きる人間	(1)1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画 (2) 1 個人として尊重される人間 2 社会的な存在としての人間 3 伝統・文化のなかの人間	
	5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	1 功利主義と幸福の原理 2 義務論と公正の原理 1 公共的な空間における協働とは 2 民主主義とは 3 立憲主義とは 4 人権保障の意義と展開	中間考査 課題提出
	6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	1 私たちの民主政治 2 地方自治のしくみと役割 3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割	
	7		5 政治参加と選挙 6 政党と利益集団 7 メディアと世論	期末考査
第 2 学 期	9	第2章 法の働きと私たち テーマ1 法や規範の意義と役割 テーマ2 市民生活と私法 テーマ3 国民の司法参加	1 法と社会規範の役割 2 法の成立と適用 1 市民生活と法 2 多様な契約 3 消費者の権利と責任 1 司法のしくみと役割 2 刑事司法と司法参加の意義	夏季課題提出
	10	第3章 経済社会で生きる私たち テーマ1 現代の経済と市場 テーマ2 市場経済における金融の働き テーマ3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	1 私たちと経済 2 市場経済のしくみ 3 国民所得と経済成長 1 金融のしくみと働き 2 中央銀行の役割と金融環境の変化 1 財政の働き 2 財政の課題 3 社会保障の考え方 4 社会保障の課題とこれから	中間考査 課題提出
	11	第4章 私たちの職業生活 テーマ1 働くことの意義と職業選択 テーマ2 労働者の権利と雇用・労働問題	1 働くということ 2 多様な職業選択 1 労働者の権利 2 現代の雇用・労働問題	
	12	第5章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ1 国際社会のルールとしくみ	1 国際社会の成り立ち 2 国際連合の役割	期末考査
第 3 学 期	1	テーマ2 国際社会と平和主義 テーマ3 国際平和への課題	1 日本の平和主義と冷戦 2 冷戦後の世界と日本 1 現代の紛争とその影響 2 平和な国際社会に向けて	冬季課題提出
	2	テーマ4 グローバル化する国際経済	1 貿易のしくみ 2 国際金融のしくみと動向 3 グローバル化と今日の国際経済 4 国際経済の諸課題	
	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	1 探究のイメージをつかもう 2 探究プロセス	期末考査

教科名	数 学	科目名	数 学 II	必修					
科 別	普 通	科 学 年	5 年	コース名	一 貫	コース	3	単位	文 系

教科書（発行所）	深進数学II（啓林館）
副教材（発行所）	Grasp II（啓林館）

学 習 目 標	高校数学において、心身の発達に応じ、社会生活を営む上で必要な一般的な教養としての数学的資質・能力などを育て、将来、どのような進路に進んでも必要に応じ積極的に数学に関わる態度を身に付けさせる。
観 点 別 評 価	知識・技能 各単元の定義、定理、公式について道筋を立てて理解し、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現 身に付けた考え方、定理、公式を用いて未知の問題へ応用し、解法へのプロセスを論理的に明示・説明することができるか定期考査の記述問題や記述課題で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度 与えられた課題に対し、積極的に取り組み、粘り強く考え、解法を導く姿勢が身に付いているか、授業の様子や課題等への取り組みで評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線	直線上の点 平面上の点 直線の方程式 2直線の関係	準備課題提出 確認テスト
	5	第2節 円と直線	円の方程式 円と直線 【探求】直線が円によって切り取られる長さ	中間考査
	6	第3節 軌跡と領域	【探求】2つの円の共有点 軌跡 【探求】除外する点の存在を確認すること	
	7		不等式の表す領域 【探求】領域を利用した証明	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数	一般角 / 弧度法 一般角の三角関数 / 三角関数の相互関係 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式・不等式	
	10	第2節 三角関数の加法定理	三角関数の加法定理 【探求】点の回転移動 2倍角・半角の公式 三角関数の合成 【加法定理の応用】	中間考査
	11	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数	指数の拡張 【探求】累乗で表された数の大小 指数関数	
	12	第2節 対数と対数関数	対数 対数関数 常用対数 【探求】常用対数の値	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用	平均変化率と微分係数 導関数 / 接線の方程式 関数の増減 / 【探求】3次関数の決定 方程式・不等式への応用	
	2	第3節 積分	不定積分 定積分 面積と定積分 / 【探求】放物線と接線で囲まれた部分の面積 【探求】絶対値を含む関数の原始関数	学年末考査
	3		1年間の総復習	

教科名	数 学	科目名	数 学 II	必修					
科 別	普 通	科 学 年	5 年	コース名	一 貫	コース	4	単位	理 系

教科書（発行所）	深進数学II（啓林館）
副教材（発行所）	Grasp II（啓林館）

学 習 目 標	高校数学において、心身の発達に応じ、社会生活を営む上で必要な一般的な教養としての数学的資質・能力などを育て、将来、どのような進路に進んでも必要に応じ積極的に数学に関わる態度を身に付けさせる。	
観 点 別 評 価	知識・技能	各単元の定義、定理、公式について道筋を立てて理解し、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた考え方、定理、公式を用いて未知の問題へ応用し、解法へのプロセスを論理的に明示・説明することができるか定期考査の記述問題や記述課題で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	与えられた課題に対し、積極的に取り組み、粘り強く考え、解法を導く姿勢が身に付いているか、授業の様子や課題等への取り組みで評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円と直線	直線上の点 / 平面上の点 / 直線の方程式 / 2直線の関係 円の方程式 / 円と直線 【探求】直線が円によって切り取られる長さ 【探求】2つの円の共有点	準備課題提出 確認テスト
	5	第3節 軌跡と領域	軌跡 【探求】除外する点の存在を確認すること 不等式の表す領域 【探求】領域を利用した証明	中間考査
	6	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数	一般角 弧度法 一般角の三角関数 三角関数の相互関係	
	7		三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式・不等式	期末考査 課題学習
	9	第2節 三角関数の加法定理	三角関数の加法定理 【探求】点の回転移動 2倍角・半角の公式 三角関数の合成 【加法定理の応用】	
	10	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数 第2節 対数と対数関数	指数の拡張 / 【探求】累乗で表された数の大小 指数関数 対数 対数関数	中間考査
	11	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用	常用対数 / 【探求】常用対数の値 平均変化率と微分係数 導関数/接線の方程式 関数の増減 / 【探求】3次関数の決定	
12	第3節 積分	方程式・不等式への応用 不定積分/定積分 面積と定積分 / 【探求】放物線と接線で囲まれた部分の面積	期末考査 課題学習	
第 3 学 期	1	<数学Ⅲ> 第1章 数列の極限 第1節 無限数列	【探求】絶対値を含む関数の原始関数 無限数列と極限 無限等比数列 【探求】漸化式で表された数列の極限	
	2	第2節 無限級数	無限級数 無限等比級数 無限級数の性質	学年末考査
	3		1年間の総復習	

教科名	数 学	科目名	数 学 B	必修					
科 別	普通	科 学 年	5 年	コース名	一 貫	コース	2	単位	文 系

教科書（発行所）	深進数学B(啓林館)
副教材（発行所）	GraspB+C(啓林館)

学 習 目 標	高校数学において、心身の発達に応じ、社会生活を営む上で必要な一般的な教養としての数学的資質・能力などを育て、将来、どのような進路に進んでも必要に応じ積極的に数学に関わる態度を身に付けさせる。
観 点 別 評 価	知識・技能 各単元の定義、定理、公式について道筋を立てて理解し、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現 身に付けた考え方、定理、公式を用いて未知の問題へ応用し、解法へのプロセスを論理的に明示・説明することができるか定期考査の記述問題や記述課題で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度 与えられた課題に対し、積極的に取り組み、粘り強く考え、解法を導く姿勢が身に付いているか、授業の様子や課題等への取り組みで評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列	数列とその項 等差数列 等比数列 【探求】等差数列の和の最大・最小	準備課題提出 確認テスト
	5	第2節 いろいろな数列	和の記号Σ 累乗の和とΣの性質 階差数列	中間考査
	6	第3節 漸化式と数学的帰納法	数列の和と一般項 いろいろな数列の和 漸化式 【探求】漸化式の有用性-ハノイの塔を通して-	
	7		数学的帰納法 【探求】漸化式と一般項	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	確率変数と確率分布 確率変数の期待値 確率変数の分散・標準偏差	
	10		確率変数の和と期待値 独立な事象と独立な確率変数 二項分布	中間考査
	11	第2節 正規分布	連続的な確率変数 正規分布 【探求】偏差値	
	12	第3節 区間推定と仮説検定	母集団と標本	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1		推定 仮説検定 身のまわりの問題への活用 【探求】両側検定と片側検定	
	2	第3章 数学と社会生活 第1節 数学と社会生活	関数によるデータの近似 大きな飼育場を作ろう マンホールのふたと定福図形 暗号	学年末考査
	3		1年間の総復習	

教科名	数 学	科目名	数 学 B	必修				
科 別	普通	科 学 年	5 年	コース名	一 貫	コース	2 単位	理 系

教科書（発行所）	深進数学B(啓林館)
副教材（発行所）	GraspB+C(啓林館)

学 習 目 標	高校数学において、心身の発達に応じ、社会生活を営む上で必要な一般的な教養としての数学的資質・能力などを育て、将来、どのような進路に進んでも必要に応じ積極的に数学に関わる態度を身に付けさせる。
観 点	知識・技能 各単元の定義、定理、公式について道筋を立てて理解し、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
別 評 価	思考・判断・表現 身に付けた考え方、定理、公式を用いて未知の問題へ応用し、解法へのプロセスを論理的に明示・説明することができるか定期考査の記述問題や記述課題で評価する。 主体的に学習に取り組む態度 与えられた課題に対し、積極的に取り組み、粘り強く考え、解法を導く姿勢が身に付いているか、授業の様子や課題等への取り組みで評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況を見て教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列	数列とその項 等差数列 等比数列 【探求】等差数列の和の最大・最小	準備課題提出 確認テスト
	5	第2節 いろいろな数列	和の記号Σ 累乗の和とΣの性質 階差数列	中間考査
	6	第3節 漸化式と数学的帰納法	数列の和と一般項 いろいろな数列の和 漸化式 【探求】漸化式の有用性-ハノイの塔を通して-	
	7		数学的帰納法 【探求】漸化式と一般項	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	確率変数と確率分布 確率変数の期待値 確率変数の分散・標準偏差	
	10		確率変数の和と期待値 独立な事象と独立な確率変数 二項分布	中間考査
	11	第2節 正規分布	連続的な確率変数 正規分布 【探求】偏差値	
	12	第3節 区間推定と仮説検定	母集団と標本 推定 / 仮説検定 身のまわりの問題への活用 【探求】両側検定と片側検定	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第3章 数学と社会生活 第1節 数学と社会生活	関数によるデータの近似 大きな飼育場を作ろう マンホールのふたと定福図形 暗号	
	2	<数学C> 第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算	ベクトル ベクトルの和、差、実数倍 ベクトルの成分	学年末考査
	3		ベクトルの内積	

教科名 **理 科** 科目名 **物 理** **必修選択**

科 別 **普 通** 科 学年 **2** 年 コース名 **一 貫** コース **3** 単位 **理 系**

教科書（発行所） **物理(東京書籍)**

副教材（発行所） **セミナー物理基礎+物理(第一学習者)**

学 習 目 標	主体性を持ち、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動などを科学的に探究するために必要な資質・能力を養い、日常生活や社会との関連を図りながら科学的素養を養う。		
観 点 別 評 価	知識・技能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。	
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。	
留 意 事 項	年間5回を予定している実験レポートは考査と同じ扱いであるので、必ず提出すること。丸写し等の不正厳禁。		

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体	・平面内を運動している物体の様子を表すのに必要な物理量について理解する。 ・質点と異なり、大きさや質量をもつ物体(剛体)があること、その運動の様子について理解する。	
	5	第3章 運動量の保存	・物体に加える力の大きさと時間の関係について考え、力と時間の積を力積ということを理解する。 ・運動量という物理量について理解する。	中間考査
	6	第4章 円運動と万有引力 1. 等速円運動 2. 慣性力 3. 単振動	・等速円運動する物体にはたらく力について、運動方程式をもとに表し理解する。 ・物体が行う復帰導(振動)が身のまわりでどこに見られるか、単純な形で表すことができる振動がどのような振動か考える。	
	7	4. 万有引力	・惑星の軌道や惑星の諸定数から、惑星の運動にどのような規則性があるのか考え、ケプラーの法則について理解する。	期末考査
第 2 学 期	9	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1. 気体の法則	・熱力学第1法則について理解する。 ・物理基礎で学習した熱機関の熱効率をふまえて、熱力学第2法則について理解する。	夏季課題提出 確認テスト
	10	2. 気体分子の運動 3. 気体の状態変化	・理想気体の状態方程式について理解する。 ・マクロな視点とミクロな視点との違いについて考える。	中間考査
	11	第3編 波 第1章 波の伝わり方	・波のようすを伝えるためにはどのように表せばよいか考える。 ・正弦波の表し方について理解する。	
	12	第2章 音の伝わり方	・物理基礎で学習した音の反射に加え、音の屈折・回折・干渉について理解する。 ・ドップラー効果とはどのような現象か理解する。	期末考査
第 3 学 期	1	第3章 光 1. 光の性質	・光の速さについて、歴史的な背景とともに理解する。 ・光の反射と屈折について、反射の法則や屈折の法則が成り立つことを理解する。	冬季課題提出 確認テスト
	2	2. レンズと鏡	・レンズには凸レンズや凹レンズがあることを知り、光(光線)が入射したときの光の進み方について理解する。 ・平面鏡や球面鏡での光の進み方について理解する。	
	3	3. 光の干渉と回折	・光も波の性質である回折が見られることを理解する。 ・ヤングの実験とはどのような実験か知り、光が干渉するときの強め合う条件や弱め合う条件について理解する。	学年末考査

教科名 **化 学** 科目名 **化 学** **必修**

科 別 **普通** 科 学年 **2** 年 コース名 **一 貫** コース **3** 単位 **理 系**

教科書（発行所） **化学基礎(数研出版), 化学(数研出版)**

副教材（発行所） **セミナー化学基礎+化学(第一学習社), フォトサイエンス化学図録(数研出版)**

学 習 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な見方や考え方を養う。
観 点	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考査、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
別 評 価	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考査の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや実験、課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	【化学基礎】 第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 (実験)酸化剤と還元剤の反応	確認テスト
	5	【化学】 第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解	・金属の酸化還元反応 ・電池、電気分解 (実験)燃料電池、ファラデーの法則	中間考査
	6	第1編 物質状態 第1章 固体の構造	・結晶とアモルファス、結晶格子 ・金属結晶、イオン結晶、分子間力と分子結晶、共有結合の結晶 (実験)単位格子の模型	確認テスト
	7	第2章 物質の状態変化	・気液平衡と蒸気圧 ・状態図	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3章 気体	・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式 ・混合気体の圧力 ・実存気体 (実験)蒸気密度法、水上置換による分子量の測定	夏期課題提出 確認テスト
	10	第4章 溶液	・溶解とそのしくみ ・溶解度(再結晶、ヘンリーの法則) ・希薄溶液の性質(沸点上昇と凝固点降下、浸透圧) ・コロイド溶液 (実験)凝固点降下、コロイドの性質	中間考査
	11	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	・化学反応と熱 ・ヘスの法則 ・化学反応と光 (実験)溶解熱・中和熱の測定(ヘスの法則)	確認テスト
	12	第3章 化学反応の速さとしくみ	・化学反応の速さ ・反応条件と反応速度 ・化学反応のしくみ (実験)過酸化水素の分解速度	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第4章 化学平衡	・可逆反応と化学平衡 ・平衡定数、圧平衡定数 ・平衡状態の変化 ・ルシャトリエの原理 (実験)平衡の移動	冬期課題提出 確認テスト
	2	第4章 化学平衡	・電離平衡 ・塩の加水分解 ・緩衝液、溶解度積 (実験)酢酸の電離定数とpH、塩化物イオンの定量(モール法)	確認テスト
	3			期末考査 課題学習

教科名 **理 科** 科目名 **生 物** **必修選択**

科 別 **普 通** 科 学年 **2** 年 コース名 **一 貫** コース **3** 単位 **理 系**

教科書（発行所） **高等学校 生物(啓林館)**

副教材（発行所） **新課程版 セミナー生物基礎＋生物(第一学習社)**

学 習 目 標	生物や生命現象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する興味、関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。演習を通じて、大学入試問題を解凍できる能力を育成する。		
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	生物や生命現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)	
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)	
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)	
留 意 事 項	単元別の小テストや課題、ノート提出等の実施時期については、教科担当者が指示を行う。 実験は授業進捗の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。		

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源 第2節 生物界の変遷と地球環境の変化	生命の起源と生物進化の道筋について学び、生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。	
	5	第2章 有性生殖と遺伝的多様性 第1節 有性生殖 第2節 遺伝子の多様な組み合わせ	減数分裂による遺伝子の分配と受精により、遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても理解する。	
	6	第3章 進化のしくみ 第1節 突然変異と進化 第2節 進化の要因 第4章 生物の系統 第1節 生物の分類と系統	進化がどのように裏づけられ、そのしくみがどのように説明されているかを学ぶ。生物の分類の方法、系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。	
	7	第4章 生物の系統 第2節 3ドメイン 第3節 細菌ドメイン 第4節 アーキアドメイン 第5節 真核生物ドメイン 第6節 人類の起源と進化	生物の分類の方法、系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。	
第 2 学 期	9	第5章 生命と物質 第1節 物質と細胞	細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。	
	10	第5章 生命と物質 第2節 生命現象とタンパク質	細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。	
	11	第6章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼 吸	光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	
	12	第6章 代謝 第3節 光合成	光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	
第 3 学 期	1	第7章 遺伝現象と物質 第1節 遺伝情報の複製	DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、そして遺伝子発現の調節を学ぶ。	
	2	第7章 遺伝現象と物質 第2節 遺伝子の発現 第3節 遺伝子の発現調節	DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、そして遺伝子発現の調節を学ぶ。	
	3			

教科名 **保健体育** 科目名 **体育（男子）** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **新高等保健体育(大修館)**

副教材（発行所）

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・自重トレーニングやケトルベル等を用いてbig3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツにおける技術と戦術・戦略 	
	5	・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・自重トレーニングやケトルベル等を用いてbig3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツにおける技能と体力 	
	6	・体づくり運動 ・器械運動(マット) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイナミックストレッチや運動解剖学的に正しいストレッチを通してしなやかな身体をつくることことができる。 ・回転系、巧技系の基本的な技に加え、条件を変えた技、発展技に取り組む。 ・技術の上達過程と練習の考え方、効果的な動きのメカニズム 	
	7	・体づくり運動 ・器械運動(跳び箱) ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動と関連して、懸垂や倒立、壁倒立して腕立て伏せ等の巧みな身体操作と筋力を必要とするトレーニングを実施することができる。 ・切り返し系や回転系の基本的な技に加え、条件を変えた技、発展技に取り組む。 ・体カトレーニング、運動やスポーツでの危険予知と安全確保 	
第2学期	9	・体づくり運動 ・剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りや自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・面打ち、胴打ちを刃筋正しく行うことができる。 ・返し胴、引き技を刃筋正しく行うことができる。 	
	10	・体づくり運動 ・剣道	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りや自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・審判法を理解し、有効打突を見極めることができる。 	
	11	・体づくり運動 ・球技(フットサル)	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレスの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・ボールを持たない時の動きを考え、空間に走りこんでパスをもらうことができるようにする。 	
	12	・体づくり運動 ・球技(フットサル)	<ul style="list-style-type: none"> ・スクワットの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・パス&コントロール 動きながらボールを受け、動きながらパスをできるようにする。 	
第3学期	1	・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・デッドリフトの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・ボールを持たない時の動きを考え、空間に走りこんでパスをもらう。 ・持久走やシャトルランなどを通し、持久力を身につける。 	
	2	・体づくり運動 ・球技(フットサル)	<ul style="list-style-type: none"> ・big3の合計挙上重量が1年次よりも増えるように自己の課題を設定し他者と協力しながら前向きに取り組むことができる。 ・ポジションと特性を理解し、作戦を考える。 ・ゲーム形式によるボール操作と空間に走りこむ動き。 	
	3	・体づくり運動 ・球技(フットサル)	<ul style="list-style-type: none"> ・big3の合計挙上重量が1年次よりも増えるように自己の課題を設定し他者と協力しながら前向きに取り組むことができる。 ・ポジションと特性を理解し、作戦を考える。 ・ゲーム形式によるボール操作と空間に走りこむ動き。 	

教科名 **保健体育** 科目名 **体育(女子)** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **新高等保健体育(大修館)**

副教材(発行所)

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。		
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。	
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。	
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。	
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 		

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	● 集団行動・自校体操・体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> ○集合・整列・挨拶・列の増減など授業が安全かつ能率的におこなえるよう集団行動を身につける。 ○本校独自の準備体操を体得する。 ○体の構造、運動の原則について理解できるようにする A:体の柔らかさ B:巧みな動き C:力強い動き D:持続する運動 ○現状の体力・運動能力を測定し、自己の結果を踏まえ体力向上に努める。 ○1スポーツにおける技術と戦術・戦略 2スポーツにおける技能と体力 について理解する。 	
	5	● 新運動能力テスト 50M走・ハンドボール投げ・立幅跳び・反復横跳び 上体起こし・握力・持久走もしくはシャトルラン		
	6	● 器械運動(跳び箱)	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な場づくりと用具の準備・管理が正しくできる。 ○主運動に発展する「補助運動」を率先して行うことができる。 ○仲間と補助し合いながら、「今できる技」「得意な技」を滑らかに安定して跳び越すことができる。 ○主運動に発展する「補助運動」を率先して行うことができる。 	
	7	● 器械運動(跳び箱)	<ul style="list-style-type: none"> ○安全な場づくりと用具の準備・管理が正しくできる。 ○「条件を変えた技」「発展技」に挑戦し、自己や仲間の課題を発見したり改善したりしながら取り組むことができる。 ○自己が選択した技を美しいフォームで滑らかに安定させて跳び越すことができる。 	
第 2 学 期	9	● ダンス ● 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ○現代的なリズムダンスの基礎を学び、音楽に合わせて体を巧みに使うことができる ○さまざまなステップを組み合わせ、体全身を使って表現し、楽しむことができる ○3技能の上達過程と練習の考え方 4効果的な動きのメカニズム について理解する 	
	10	● ダンス	<p>【グループ学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループ作り、選曲・内容構成・発表までを各自で行う ○基礎ステップを取り入れ、個・群の動きに工夫をこらすことができる ○グループ学習において意見・考えを積極的に行うことができる 作品を完成させる 	
	11	● 球技(バレーボール) ● キャッチボール ● アンダーハンドパス ● オーバーハンドパス ● 複合パス	<ul style="list-style-type: none"> ○バレーボールの基本技術であるアンダーハンドパスとオーバーハンドパスの技術を身に付ける。 ○また、キャッチボールを行いながら、全身のストレッチと、スパイク動作のミートも練習する。 【個人技テスト】直上アンダーパスと直上オーバーパスを3分間でボールを落とさず何回出来るか教える。 【ドリル】アンダーパス30回、オーバーパス30回、コンビ30回、片方が打ち、もう片方がレシーブして打ち手がキャッチ10回 【チームドリル】4対4に分かれランニングパス、円陣パス、4対4でのミニラリーゲーム 	
	12			
第 3 学 期	1	● 球技(バレーボール) ● スパイクステップ ● スパイク ● サーブ	<ul style="list-style-type: none"> ○ネットを張る。安全に留意し協力して準備するよう心掛ける。 <スパイク> ステップ練習では2歩助走で練習する。ボールを頭上でキャッチ→両手首を使って逆コートに返球→片手で返球する→ミートして返球 <サーブ> アンダーハンド・サイドハンド・フローターサーブの順に練習する 【ネットプレーテスト】 ○手投げのボールを5球スパイクを打つ。ステップの正確性と、返球したボールの回転を評価する。 ○10球サーブを打ち、何球相手コートに入るか教える。サーブの種類は何でもよい。 【チーム練習】 ○ソフトバレーコートを作り、4対4のゲームを行う。 ○6対6のゲームを行う 	
	2			
	3	● 球技(バレーボール) ● ゲーム ● 体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ○5体力トレーニング 6運動やスポーツでの危険予知と安全確保 について理解する 	

教科名 **保健体育** 科目名 **保健** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **新高等保健体育(大修館)**

副教材(発行所)

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	生涯を通じた健康や体育・スポーツの基礎となる考え方を理解しているかどうかをICTを活用した小テストや、授業中のワークシートへの取り組みで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた保健体育の知識や技能を実践できているか、自分の考えを説明(表現)することができるかをグループワークやICTを活用して評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、保健体育の正しい知識に基づき判断しようとして、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用して評価する。
留意事項	日頃より保健分野で扱う項目に対し興味・関心を持ち、ニュース・新聞記事等に目を向けること。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1単元 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考えと成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 日本における健康課題の変遷 日本における疾病構造の変化とその要因 健康に関する考え方 ヘルスプロモーションの考え方 健康の成り立ちに関わる様々な要因 健康を守り、育てる環境 	
	5	4 健康に関する意思決定・行動洗濯 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定・行動選択と健康との関係 時代や地域で変化する感染症 感染症予防の三原則 性感染症、エイズとは 生活習慣病とは よりよい意思決定・行動選択の方法 現在、特に問題となっている感染症 現代の感染症発症予防とまん延防止のための対策 性感染症、エイズを予防するための対策 生活習慣病の予防と回復のための取り組み 	
	6	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 身体活動、運動と健康の関係 食事と健康の密接な関係 休養、睡眠と健康の関係 がんの予防と治療 喫煙による健康影響 身体活動、運動の実践と社会環境の整備 健康的な食生活の実践と社会環境の整備 健康づくりのための休養・睡眠の確保 がんに関する社会的な取り組み 喫煙を開始する様々な要因と依存症 	
	7	14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応	<ul style="list-style-type: none"> たばこ問題への対策 飲酒を開始する様々な要因と依存症 精神疾患とはどのようなものか 心の不調の早期発見とセルフケア 心の健康社会の実現を目指して 飲酒による健康影響や社会問題 不適切な飲酒を防止するための対策 主な精神疾患とその特徴 自分だけで悩まず助けを求めることの大切さ 	
第 2 学 期	9	2単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> 事故とその被害 交通事故防止のための取り組み 自他の安全を確保する行動 事故の発生に関連する要因 交通事故を起こした場合の責任と補償 安全を確保する社会の取り組み 	
	10	4 応急手当の意義と救急医療体制 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当 3単元 生涯を通じた健康 1 思春期と健康	<ul style="list-style-type: none"> 応急手当の意義 心肺蘇生法の意義 日常的な応急手当 思春期における体の変化と性機能の成熟 救急医療体制の仕組み 心肺蘇生法行い方 熱中症の予防と応急手当 思春期における体の変化と健康課題 	
	11	2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康	<ul style="list-style-type: none"> 性意識の変化と異性の尊重 結婚、婚姻状況と健康 受精、妊娠、出産 家族計画の意義 加齢による心身の変化 性に関する情報と性行動の選択 夫婦関係、親子間家と健康 母子の健康のために 避妊法の選択と人工妊娠中絶 中高年期を健やかに過ごすために 	
	12	7 高齢社会に対応した取り組み 8 働くことと健康 9 労働災害の防止 10 働く人の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を取り巻く状況 働くこと(労働)の意義と働き方の変化 日本における労働災害の推移 職場における健康の保持、増進活動 高齢者を支える社会の取り組み 働く人における健康問題の現状 労働災害を防止するための仕組み 日常生活における健康の保持、増進活動 	
第 3 学 期	1	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対策 4 環境衛生に関わる活動	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染による健康への影響 水質汚濁による健康への影響 環境汚染の防止とその対策 安全な飲み水の供給と汚水の処理 地球規模の大気環境問題 土壌汚染による健康への影響 産業廃棄物の問題と新たな環境汚染の課題 生活環境守るごみ処理 	
	2	5 食品の安全性と健康 6 食品の安全性を確保する取り組み 7 保健制度とその活用 8 医療制度とその活用 9 医薬品の制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性と課題 食品の安全性を確保する行政、生産、製造者の役割 生涯を通じて病気から人々の健康を守る保健行政 健康の保持、増進のために活用できる保健サービス 医薬品の種類と承認制度 食品の安全性の確保 医療制度と医療保険 医療機関の役割と適切な活用 医薬品の使い方 	
	3	10 様々な保健活動や対策 11 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の健康課題を解決する取り組み 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり 様々な機関・組織の活動 多様な人や組織が参加して進める環境づくり 	

教科名 **外国語** 科目名 **英語コミュニケーションⅡ** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **4** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **FLEX ENGLISH COMMUNICATION Ⅱ (増進堂)**

副教材(発行所) **英文法・語法Vintage(いゝずな書店) / システム英単語(駿台文庫) / Reading Express Book 2~3(Z会)**

学習目標	1年次の「英語コミュニケーションⅠ」・「論理・表現Ⅰ」での学習内容を土台とし、読むことに重点を置きながら、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を的確に理解する能力、英語で自身の意見を適切に表現し発表する能力を総合的に培う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題の概念や要点を英語で的確に理解し、これらを活用して自分の考えを英語で適切に表現したり周囲に伝えたりすることが出来るかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり学習を振り返ったりするなど、自らの学習を主体的に捉えている状況を、各種テストや授業への取り組みの様子等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況を把握しながら教科担当者が指示する。(小テストにはスピーキングテストも含む。)観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	LESSON 1 Anime Pilgrimages	【文法事項】受け身の不定詞 / 受け身の進行形 日本のアニメ文化を通して、聖地巡礼がもたらすメリットとデメリットについて学び、日本文化の今後を考える。	準備課題提出 確認テスト
	5	LESSON 2 Iwaya Keisuke and the Pursuit of Dreams	【文法事項】助動詞 + 完了形 / 受け身の完了形 岩谷さんの人生を通して、夢を持つことの大切さやそれを実現させるアイデアや情熱の必要性を学び、自分の夢について考える。	中間考査
	6	LESSON 3 The Surprising History of Salt	【文法事項】if節のない仮定法 / 動名詞の意味上の主語 人類の進歩にとって塩がいかに重要な役割を果たし、塩の価値がどのように変化したかを学び、その存在意義について考える。	
	7	LESSON 4 A Future World, with or without Sea Turtles	【文法事項】as ifを用いた仮定法 / 疑問詞 + to do ウミガメの生態や赤ちゃんウミガメの過酷な運命について学び、人間が動物の世界にどのような影響を及ぼしているのかを考える。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	LESSON 5 The Psychology of Waiting in Line	【文法事項】同格を導く接続詞 that / 関係副詞の非制限用法 人々が行列に並ぶ際の心理状況について考え、行列が生じる場所で行われている様々な工夫や公平性の重要性を学ぶ。	夏季課題提出 確認テスト
	10	LESSON 6 The Human Library	【文法事項】否定の分詞構文 / 完了形の不定詞 生きている人間が「本」として自身の体験を語る活動について学び、様々な経歴の人々を理解することがいかに大切であるかを考える。	中間考査
	11	LESSON 7 More Than Just Shelters	【文法事項】部分否定 / 未来に関する仮定 自然災害によって家を失った人々が直面する過酷な環境について学び、坂さんが行ってきた人道的活動の原点を考える。	
	12	LESSON 8 Infectious Diseases and Humans	【文法事項】付帯状況のwith / 受け身の分詞構文 感染性の病気や風邪はウイルスが原因であることを学び、人々は今後どのようにウイルスと向き合っていけばよいかを考える。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	LESSON 9 Fashion for Pride	【文法事項】倒置 / 完了形の分詞構文 サブールとしての生き方や彼らの哲学について学び、なぜ単なるファッションの問題ではなく内面まで変化していくのかを考える。	冬季課題提出 確認テスト
	2	LESSON 10 Larry Page and the Dream of Google	【文法事項】複合関係代名詞 / 二重否定(肯定の意味) グーグル創立者の人生を通して、突拍子のない夢であっても諦めなかった背景を学び、自分の夢を追い求めることの大切さを考える。	
	3	同上	同上	学年末考査 課題学習

教科名 **外国語** 科目名 **コミュニケーションスキルズ** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **3** 単位 **文理共通**

教科書（発行所） **改訂版 和文分析から始める英作文 Steady Steps to Writing (数研出版)**

副教材（発行所） **英文法・語法Vintage(いっずな書店) / システム英単語(駿台文庫)**

学習目標	1年次の「英語コミュニケーションⅠ」・「論理・表現Ⅰ」で学習した文法規則や定型表現の復習と発展的な文法事項や語法を学ぶことによって、より高度な表現力を身につける。また、自分の考えや意見等を英語を用いて主体的に発信しようとする態度を培い、論理展開や表現方法を工夫しながら自分の考えや意見を英語で伝える力を養う。
観 点 別 評 価	<p>知識・技能 自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や表現方法について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。</p> <p>思考・判断・表現 学習した文法規則や表現方法を用いながら、英語で積極的に自分の意見を伝えようとしているかどうか、またその表現が適切かつ自然であるかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり学習を振り返ったりするなど、自らの学習を主体的に捉えている状況を、各種テストや授業への取り組みの様子等で評価する。</p>
留意事項	単元別的小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進度を把握しながら教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	英作文のプロセス 和文英訳に慣れよう！－ 隠れているものを見抜く	・日本語と英語の構造の違いを理解し、英文を作り出すプロセスについて学ぶ。 ・主語の省略や内容の補足など、和文英訳を行う際にポイントとなる点を確認する。	春季課題提出 確認テスト
	5	Part 1 動詞の表現 1. 時制(1)	・現在および過去の習慣や状態を説明する表現について学ぶ。また、現在形や過去形と進行形の表すニュアンスの違いについて考える。 ・現在完了形と過去形の違いについて学ぶ。また、完了形を学ぶことで過去と現在の繋がりについて考える。	中間考査
		2. 時制(2)		
	6	3. 時制(3)	・過去完了形や未来完了形について学び、表現の幅を広げる。また、時間の前後関係についても意識できるようにする。 ・may / can / must / shouldといった助動詞が表す意味について学び、助動詞を適切に用いながら書き手の気持ちや判断を表現する。	期末考査 課題学習
		4. 助動詞(1)		
	7	5. 助動詞(2)	・過去の事柄に対する「推量・非難・後悔など」を表す表現方法について学ぶ。(助動詞 + have + 過去分詞) ・直説法と仮定法の違いについて学び、それぞれの状況に応じた表現力を高められるようにする。	期末考査 課題学習
		6. 条件・仮定(1)		
第 2 学 期	9	7. 条件・仮定(2)	・仮定法過去や仮定法過去完了の基本的な形に加えて、事実と異なることを様々な表現で表す方法を知る。 ・能動態と受動態が表すニュアンスの違いについて考え、適切に運用できるようにする。	夏季課題提出 確認テスト
		8. 態		
	10	Part 2 準動詞の表現 9. 不定詞・動名詞(1)	・不定詞と動名詞の基本的な用法について学び、適切に運用できるようにする。また、不定詞の三用法(名詞・形容詞・副詞)の違いを知る。 ・形式主語のitを用いた構文や、seem (appear) to do / It seems (appears) that S+V の使い分け等を知り、表現の幅を広げる。	中間考査
		10. 不定詞・動名詞(2)		
	11	Part 3 名詞の表現 11. 分詞	・分詞の叙述用法と限定用法、分詞構文(分詞の副詞的用法)について学び、表現の幅を広げる。 ・主格、目的格、所有格の関係代名詞を学習し、名詞のカタマリを表す方法について考える。	期末考査 課題学習
12. 関係詞(1)				
12	13. 関係詞(2)	・関係代名詞のwhatや関係副詞、ならびに関係詞の非制限用法(継続用法)と制限用法の違いについて学び、表現の幅を広げる。	期末考査 課題学習	
第 3 学 期	1	Part 4 構文表現 14. 比較	・原級、比較級、最上級の基本的な形を学習するとともに、比較表現を用いた構文について知り、表現の幅を広げる。	冬季課題提出 確認テスト
		15. 否定	・全否定や部分否定、hardly / scarcely / rarely / seldomといった準否定語を用いた否定表現について学び、表現の幅を広げる。	
	2	入試問題演習	・入試問題を用いながら、文法や語法の演習等を行う。	
3	入試問題演習	・入試問題を用いながら、文法や語法の演習等を行う。	学年末考査 課題学習	

教科名 **情報** 科目名 **情報 I** **必修**

科別 **普通** 科 学年 **5** 年 コース名 **一貫** コース **2** 単位 **文理共通**

教科書(発行所) **情報 I (日本文教出版)**

副教材(発行所) **ミニマニュアルシリーズ プログラミング入門Python編(数研出版) 情報 I サブノート(日本文教出版)**

学習目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。	
観点別評価	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
留意事項	各学期に1回実施する理解度確認テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第1章 第1節 情報の特性 第2節 メディアの特性 第3節 問題解決の考え方 第4・5節 法の重要性と意義知的財産権/個人情報	第1節 情報の定義と特性 第2節 メディアの特性とメディア・リテラシー 第3節 1.問題の明確化 2.問題解決の流れと評価・改善 第4節 1.産業財産権 2.著作権 3.知的財産権の保護と活用 第5節 個人情報保護法と個人情報の取り扱いについて	
	5	第1章 第7・8節 情報技術の発展による生活と社会の変化 技法 第2章 第1節 メディアとコミュニケーション	第7節 ソーシャルメディアの特性と望ましい利用 第8節 1.Society 5.0の到来 2.情報社会の未来と問題解決 技法 問題解決の技法と表計算ソフトウェアによる表作成と活用 第2章 第1節 1.メディアの活用と特性 2.インターネットの発展 3.情報機器のパーソナル化とソーシャルメディア	
	6	第2章 第2節 情報のデジタル化 第3章 第1節 コンピュータのしくみ	第2章 第2節 1.コンピュータとデジタルデータ 2.文字・音・画像・動画・のデジタル化 3.データの圧縮 4.情報のデジタル化とデータ量 第3章 第1節 1.コンピュータの基本的な構成 2.ソフトウェアとOS	
	7	第3章 第1節 コンピュータのしくみ	第3章 第1節 3.CPUとメモリ 4.CPUによる演算のしくみ 5.2進法による計算	理解度確認テスト
第2学期	9	第2章 第3節 情報デザイン 技法	第2節 情報デザインとその技法について 技法 Pythonを使ってみる 1.Pythonとは 2.Pythonを使う プログラムを作る 1.変数とは 2.入力されたデータの処理 3.処理の条件分岐	夏期課題提出 プログラミングは副 教材使用
	10	技法 第3章 第2節 アルゴリズムとプログラム	技法 プログラムを作る 4.処理の繰り返し 5.任意の関数を作る 第3章 第2節 1.アルゴリズム 2.アルゴリズムの基本と表現方法 3.プログラムの構成要素①②	前半は副教材使用
	11	第3章 第2節 アルゴリズムとプログラム 第3節 モデル化とシミュレーション 第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ	第3章 第2節 4.データの扱い 5.アプリケーションの開発 第3章 第3節 1.モデルとは 2.モデル化とシミュレーション 3.コンピュータを利用したシミュレーション 第4章 第1節 1.コンピュータネットワーク 2.ネットワークの接続	
	12	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ 第1章 第6節 情報社会と情報セキュリティ	第4章 第1節 3.プロトコル・プロトコルとIP 4.プロトコルとデータ転送のしくみ 第1章 第6節 1.サイバー犯罪の分類 2.情報セキュリティの確保 3.不正なソフトウェア 4.様々なインターネット詐欺	理解度確認テスト
第3学期	1	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ 第2節 情報システムとデータベース	第4章 第1節 5.情報セキュリティの確保と対策 6.暗号化のしくみ 7.暗号化と認証技術 第2節 1.情報システム 2.情報システムにおけるデータベース	
	2	第4章 第2節 情報システムとデータベース 第4章 第3節 データの活用	第4章 第2節 3.データベース管理システムとデータモデル 第4章 第3節 1.データの収集と整理 2.数値データの分析 3.テキストデータの分析 4.アンケート調査によるデータの収集	
	3	第4章 第3節 データの活用	第4章 第3節 5.量的データの分析手法 6.統計的検定	理解度確認テスト